

平成30年度 芸術科「書道 I」 SYLLABUS

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 第2学年 進学文系クラス
教科書	新編 書道 I (書 I 307) 教育出版	副教材等	改定 基本ペン習字 (教育図書)

1. 学習の到達目標

- ① 正しく整えて読みやすい文字を書けるようにする。(硬筆)
- ② 様々な古典の臨書により、様々な表現方法を学び、それらを生かした作品を制作できるようにする。(毛筆)
- ③ 様々な作品の時代と歴史的 위치を理解する。

2. 学習の計画

学期	月	単元名	学習事項	学習内容や活用	評価の材料等	
前 期	4	書の芸術性 書の美を求めて ペン習字	書体の変遷(漢字) 書写と書道 ペン習字(硬筆)の学習 基本点画 間架結構法 筆順 部首	・自分たちの身近にある文字の歴史を考え書体の変遷を学ぶ ・書写と書道の違いを理解する。 ・ペン習字(硬筆)を通して文字の基本として点画・部首・構成などの重要性を理解させ、丁寧に書く習慣を身に付けさせる。 ・基本点画・間架結構法・筆順・部首の理解 1起筆・送筆・収筆 2横画 3収筆の形(はね・はらい・とめ) 4送筆の形(まがり・そり・おれ) 5右払い(方向) 6左払い(方向) 7点(方向・長短)	プリント プリント プリント 基本ペン習字 プリント プリント	
	5	ペン習字 用具・用材 姿勢・執筆	書体の変遷(仮名) 用具・用材の種類 姿勢・執筆について	楷書の基本 ・仮名の正しい形と字源を理解させる。 ・文房四宝についての理解させる。 ・正しい姿勢・執筆を知る。	基本ペン習字 基本ペン習字 プリント プリント プリント	
	6	楷書の学習 楷書の基本を知ろう	古典の臨書 九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑	・臨書の種類を知り、その意義を確認する。 ・毛筆による書表現の多様性を理解し、これを積極的に鑑賞する態度を身につける ・九成宮醜泉銘の特徴と書法を理解し、楷書の基本的な用筆を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(欧法等)	臨書作品 臨書作品	
	7	軽快と重厚	雁塔聖教序 顔氏家廟碑	・雁塔聖教序の特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(褚法等) ・顔氏家廟碑の特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(顔法等)	臨書作品 臨書作品	
		方勢と円勢	牛欄造像記・鄭羲下碑	・両古典を比較、特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(方勢・円勢等)	臨書作品	
	9	小字の書の鑑賞と臨書 ペン習字 行書の学習 さまざまな行書	蘇慈墓誌銘・賢愚教殘卷(大聖武) 楷書と行書の比較 行書の特徴	・小楷の書法の応用により、日常書写能力の向上をはかる。 作品理解、臨書により小楷の書法を理解し基本的な用筆法を習得する。 行書の基本 ・行書の特徴を知り、行書が芸術の書、実用の書の両方で広く用いられていることを理解する。 行書の表現の多様性にふれ、行書の成立について、正しく理解する。	臨書作品 ペン習字の基本 楷書・行書比較作品	
	後 期	10	行書の基本を知ろう ペン習字 篆書の学習 隷書の学習 草書の学習 漢字の書の制作 ペン習字	蘭亭序・争坐位稿 王羲之を学んだ名家 風信帖・日本の行書 泰山刻石 曹全碑・居延漢簡 書譜 楷書・行書	蘭亭序・争坐位稿の鑑賞と臨書をとおして、行書の基本的な表現技法を習得する。 三筆・三跡とおして平安時代の書の特徴を理解する。 草書の基本 基本的な篆書の学習により、篆書の特徴を理解し、用筆・運筆・結構法を習得する。 基本的な隷書の学習により、隷書の特徴を理解し、用筆・運筆・結構法を習得する。 基本的な草書を学習することにより、草書の特徴を理解する。 主体的・意欲的に制作し、表現力を身に付け楽しく制作する。 仮名の基本・応用編 一般生活の書式の書き方	臨書作品 臨書作品 臨書作品 ペン習字の基本 臨書作品 臨書作品 創作作品 ペン習字の基本
		11	仮名の学習 漢字仮名交じりの書	平仮名・変体仮名・連綿 蓬萊切・高野切・三色紙 粘葉本和漢朗詠集 近衛本和漢朗詠集 意図に応じた表現	用具・用材・姿勢・執筆などの基本的な事項を身につける。 仮名の成立過程・仮名の種類を理解する。 変体仮名・連綿に関心を持ち、その効用を理解する。 名筆をとおして日本の伝統的な書的美感を感ずる。 漢字と仮名の調和の重要性を確認し、そのための工夫について考える。	臨書作品 臨書作品 臨書作品 創作作品

後 期	12	自分の表現を目指して  名筆に学ぶ  感動や思いを表現しよう	用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解し、表現に工夫をする。 用具・運筆の違いによる多様な線質を理解し、表現を工夫する。 文字の大小、字形、配置、書体などを工夫し、表現を試みる。 明確な制作意図をもち、主体的・意欲的に表現を行う。 名筆の学習を応用して、漢字と仮名を調和させながら、ねらいにそった表現をする。 言葉と表現の関わり方、表現の工夫の方法を味わう。	創作作品  創作作品 創作作品 第四回定期考査
	1			
	2			
	3			

### 3. 評価の観点

関心・意欲・態度	授業に取り組む態度、提出物の期日をしっかりと守ることを重視する。
知識 ・ 理解	授業で学んだ文字の歴史、古典作品などの歴史的位置を理解する。

### 4. 評価法

硬筆においては基本点画をしっかりと理解し、プリント・基本ペン習字を、毛筆においては臨書作品・創作作品を評価します。また、その時に学んだ知識等を定期考査において出題します。

### 5. 担当者からのメッセージ

日本で一般生活で使用されている文字の歴史を知識として理解し、その時代の歴史と関連させる。また、色々な表現法を学び一般生活において、正しく整えて読みやすい文字を書くように習慣をつけさせたい。